

援交ってたのしいよね！  
いっしょに援交をたのしもうよ！

宮●咲ちゃんに  
ナマ挿入ナマ中出し！

もっとセックスで  
気持ちよくなりたいんです！





お股を左右に開いた咲ちゃん。はしたない格好で両手を添えて恥ずかしい穴を見せつける。  
縦に並んだ三つの穴が、ぐにゃりとゆがみ、ぱっくり開いては、またぴたぴたと閉じる。



咲ちゃんのおまんこに勃起した千ンコを突き刺して、ゆっくり腰と腰とをぶつけ合う。  
愛液まみれの千ンコが咲ちゃんの中へ出たい入りたいするのを眺めつつ、感触を味わう。





興奮してきて、たまらず咲ちゃんの腰を力強く掴むと、激しいピストンを刻みつける。  
挿入されるたびに震動が股間から伝わり、咲ちゃんの小さなおっぱいがぶるぶる揺れる。



何日分も袋に溜め込んだ大量の精液をマンコに注ぐ。抜き出して股間にもまき散らす。それだけでは飽き足らず、チンポを咲ちゃんの口にくわえさせ、もうひとしごきする。



連れ込まれたばかりだということに、さっそく上半身も下半身も精液まみれにされた咲ちゃん。おまんこから排泄された白濁汁が、くさい糸を引いてシーツにたれ落ち、汚いシミをつくる。





両足を抱えられて不安そうな咲ちゃんを見つめながら、ちんぽの先で陰唇をつつく。  
咲ちゃんの中から漏れてきた湿い気がお尻の穴まで濡らしてから、ようやく挿入する。





龟头の段差で咲ちゃんの膣口をひっかいて、狭い穴が入りやすいようにと拡張する。  
粘っこい愛液がどんどん分泌されてきて、膣口とチンコの境目に透明な泡がいくつも浮かぶ。



咲ちゃんの喘ぎ声を聞きながら腰を動かし続けたのち、膣に精液をたんまりと注入する。  
しほんだチンコをずると穴から引き出すと、まんごとの間には透明な糸が何本も引かざる



張りのないチンコを柔らかい内ももに挟んで、スリスリとしごいてくれる咲ちゃん。  
充血してガキガキに固まった陰茎を満足そうに眺めて、うっとりため息を漏らす。





体の真下から股間を突き上げると、咲ちゃんの背筋がくねくねと頼りなく曲がって跳ねる。お腹の中でチンコをぐいぐい回して、まだ異物の挿入に慣れていない体を変えていく。





前に出された精液がまだ残っているであろう咲ちゃんの子宮に、白濁液をつぎ足す。  
お腹いっぱい射精されて溜まった違和感のものが、体の内側をどろどろと伝い落ちる。



ぐしょ  
ぐしょ  
ぐしょ

ぐしょ  
ぐしょ  
ぐしょ

濡れたマンコは勃起したチンコをすんない受け入れ、膣の粘膜をびたいと吸いつかせる。ぐしょぐしょにされた陰裂に体重がのし掛かってゆがむたび、やらしい水音が鳴り響く。



咲ちゃんの体のあちこちに触れているだけでチンコは勝手に充血し、ムクムクと起き上がる。欲情されて興奮したのか、咲ちゃんの乳輪もまた膨らみはじめ、乳首がツンと固く尖る。





結合した部分からぞくぞくと伝わる快感で、咲ちゃんの喘ぎ声に余裕が無くなっていく。またもイってしまい、みっともなく腰を震わせる咲ちゃんの中へ、精液を大量に吐き出す。





初めての体位が新鮮だからか、咲ちゃんは少し大胆になり、密着した腰を揺らしてくる。千コノの先っぽが奥深くまで潜り込んで咲ちゃんの子宮口に到達し、ぐいぐいと圧迫する。



股間の圧着を繰り返すうちに快感はますます大きくなって、舌のろれつが回らなくなる。  
チンコを激しく打ち付けられても、咲ちゃんのおまんこは柔らかく受け止めてくれる。



腰をガクガクとけいれんさせ、何度目かの絶頂を迎えた咲ちゃんの中に精液をぶっかける。  
達した余韻でしばらく体を小刻みに震わせている背中を、繋がったまま抱っこしてあやす。





咲ちゃんと抱き合っただけで、勃起を回復していたチンコをいきなり挿入する。  
おまんこはむしろそれをずっと待ちわびていたらしく、満ち満ちた愛液でチンコを迎える。





見つめ合い、何度も咲ちゃんと唇を重ねながら、下半身をうねうねと動かして快感を求める。  
咲ちゃんは上下のお口をびしょびしょに濡らしてよがり、体のあちこちをひくひくさせる。



感じまくる咲ちゃん表情を目の前で眺めつつ、柔らかいお腹の中心に精液を排泄する。  
やりまくっているとはいえ、近すぎて恥らう咲ちゃんの口を強引に吸い、唾液を飲ませる。



ほとんど弄ったことがないというアナルを亀頭の先でつつきながら、尻の肉をまさぐる。  
咲ちゃんは、お尻の穴だけは大切な人のためにおきたいらしく、きっぱり挿入を拒む。





アナルを断ったからか、マンコでもっと満足してもらおうと、慣れない腰を動かしてくれる。もどかしい性感に焦れて下から突き上げると、背中をくねらせて何度でもイってしまう。



ちんこは挿入の激しさに何度も滑って抜け落ちながら、ようやく咲ちゃんに精液を放つ。  
抜けやすい体位だと知らない咲ちゃんは、自分の穴が緩んだせいかもしれないと心配する。



小休止した後、あらためて体の上に乗ってもらい、咲ちゃんに騎乗位を教え込もうとする。どうしていいかわからず困惑する咲ちゃんの乳をいじりつつ、あれこれ指示を出していく。





咲ちゃんは、言われるがままにゆっくり腰を上下に振って、勃起したチンコの感触を味わう。そのうち自分から前後左右に腰をひねるようになり、感じる箇所にチンコをすいつける。



自分で動いてチンコを射精させたことが嬉しかったのか、咲ちゃんは積極的に次を求める。あとけない顔をしている咲ちゃんにやらしくチンコをおねだいされて、再び勃起を取り戻す。



咲ちゃんをいきなり押し倒し、精液で汚れたままのマンコに半勃起状態のチンコを挿入する。腰を動かすうちに固さを取り戻し、そのまま咲ちゃんのマンコをオナホ扱いし続ける。





ただ黙々と犯されるだけの性交に興奮してしまったのか、咲ちゃんはイってしまう。  
窮屈な姿勢を強いられたまま絶頂をむかえ、乱暴に扱われた体をガクガクと震わせる。





感じまくる咲ちゃんのアへ顔を眺めつつ、柔らかくほぐれた膣の感触を存分に堪能する。  
咲ちゃんの中に潜り込んだチンコが粘膜をあちこち引っ掻き、感じ方まで丸裸にしていく。





射精されるまでの間に何度も繰り返しイカされたせいで咲ちゃんは力尽き、もうろうとする。おそらくもう精液の味が忘れられなくなるほどの量を子宮に注がれてしまっている。



後ろから腰を掴んで引き寄せると、咲ちゃんのお尻はチンコを挿入しやすいように上を向く。  
性感を期待する膣口からは愛液が漏れ出して、太ももまでびしょびしょに濡らしていく。

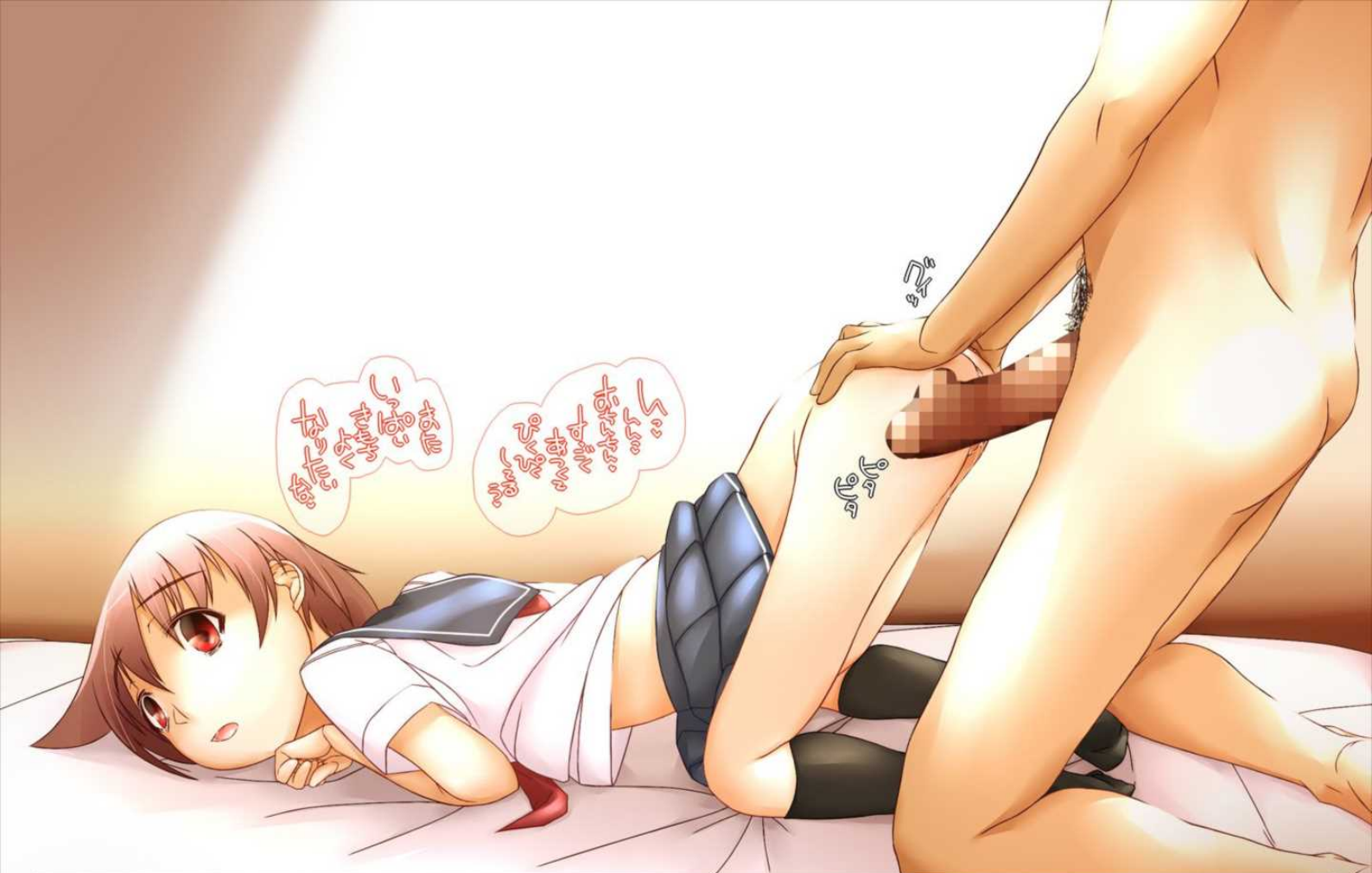


咲ちゃんの腰は、快感を得やすいようピストンに合わせて勝手に動くまでになっている。  
穴をほじるたび膣の圧力が緩んだら締まったりを繰り返して、つられて肛門がひくひくする。



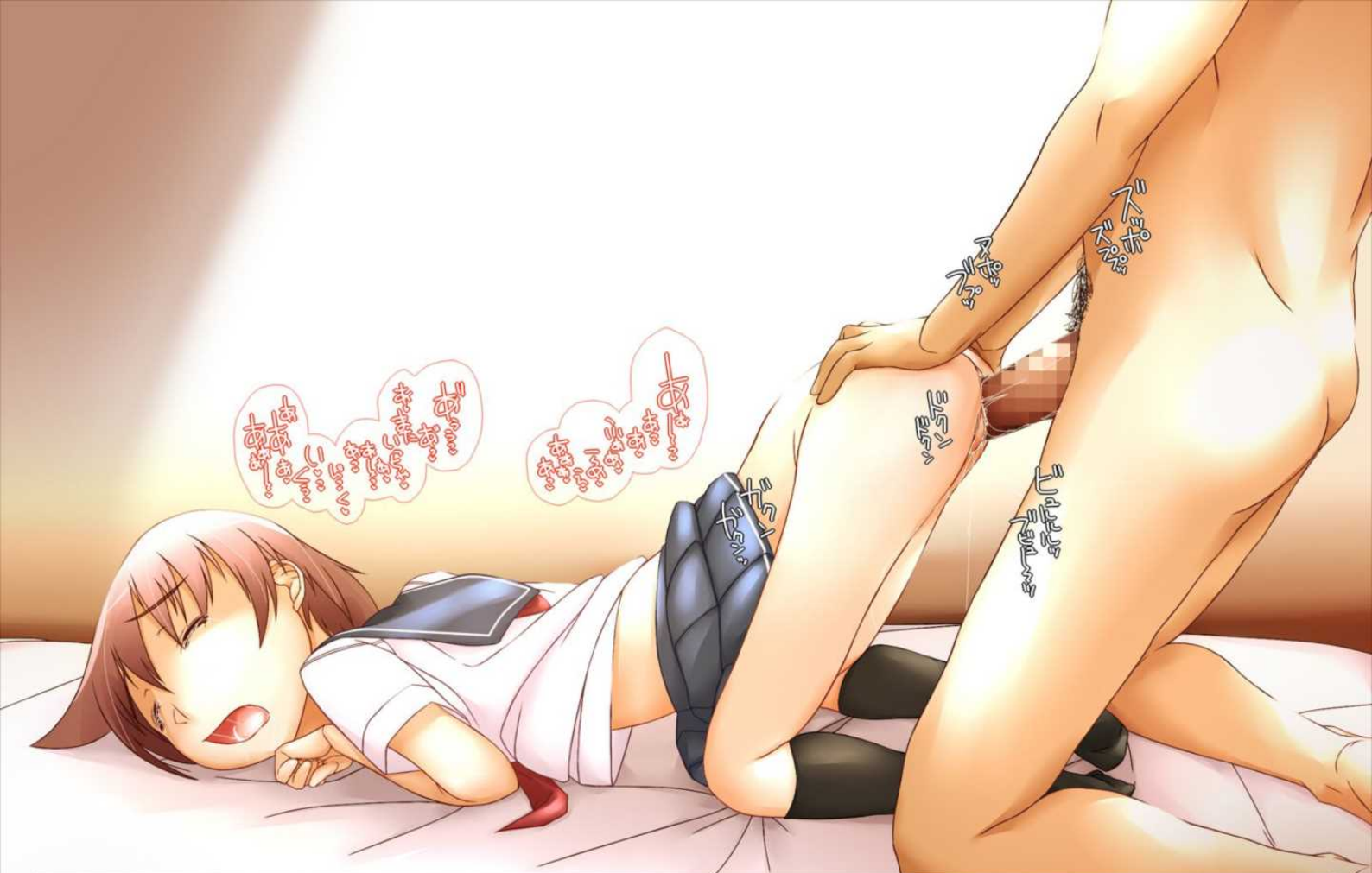


膺の熱くめかるんだ感触に煽られ、尿道口を子宮口に密着させ、たちまち射精する。  
搾り出された精液の残りかすがお尻の上をすべり落ち、咲ちゃんの背中はぴくんと跳ねる。



うんちが臭い  
お尻を振って挿入をせがむ

シミひとつなくすべすべした咲ちゃんの下半身に、異臭を放つ薄汚いチンコをすりつける。  
おちんちんが大好きになってしまった咲ちゃんは、嬉しそうにお尻を振って挿入をせがむ。



うつ伏せにして背後から挿入すると感じやすいのか、挿入しただけでも軽くイってしまう。  
おなかの内側でチンコを滑らせるだけで簡単に達してしまい、背筋をねじって悶えまくる。





射精が近づき激しいピストンを加えると、咲ちゃんは呼吸も出来なくなり喘ぎ声が途絶える。ほとんど死に掛けの咲ちゃんに思い切り精液をぶちまけてあげると、ようやく蘇生する。



互いの顔が見えないせいで気が緩んでいるのか、咲ちゃんは平然と淫らな要求をしてくる。ちんこの裏筋で股間をピタピタと叩き、さんざん焦らしてから柔らかい凹みに埋めていく。



チンコは小刻みな動きを繰り返し、咲ちゃんのお愛液でとろとろしたマンコの中を這い回る。  
お尻の肉を腰に打ちつける激しい挿入で、マンコに巻き込んだ空気がはしたない音を鳴らす。





いつ子宮に出した分かわからない精液が、咲ちゃんのおまんこから漏れてシーツに滴る。  
咲ちゃんは少し拗ねた声を出して、性感を開発されすぎた自分の体に対する不安をもちます。



マンコへの挿入前に、何度も亀頭で肛門をつついていたせいか、咲ちゃんに釘をさされる。今日のところは諦めて、もうずっとくしょくしょになったままのマンコに陰茎を埋める。

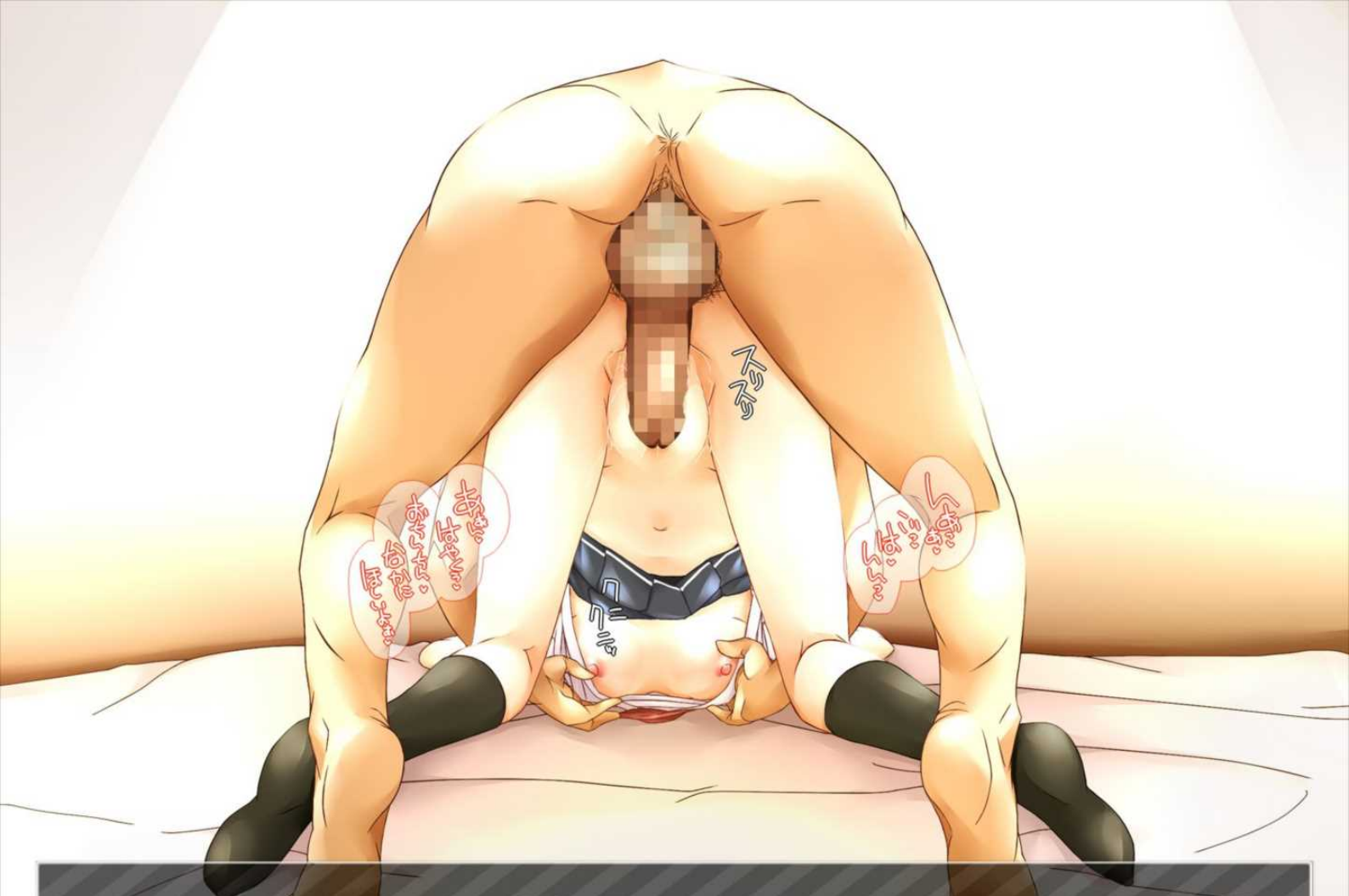


咲ちゃんはマンコの感触に飽きられないよう、招き入れたチンコをキュッと締めつける。  
ぐにゃぐにゃした感触が硬直したチンコに密着し、圧迫して精液を搾りとりとうとする。





かえて自分が気持ちよくなってしまった咲ちゃんは、射精させるより先にイってしまう。  
今まで知らなかった快感までマンコから得てしまい、ますますいやらしい体になっていく。

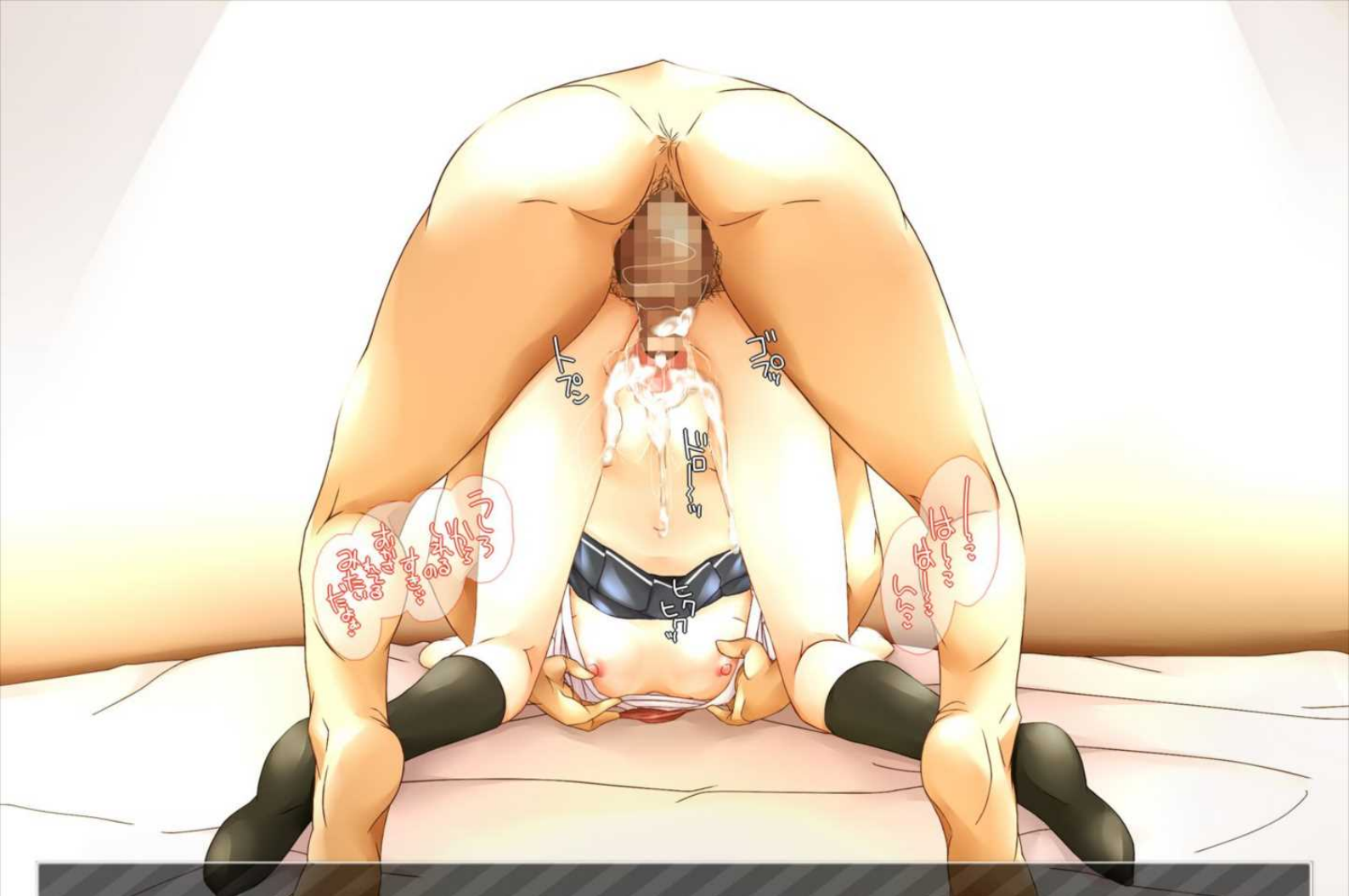


うつ伏せになった咲ちゃんの上から背中に覆いかぶさり、じわじわと体重をかけていく。  
今にも押しつぶされそうな咲ちゃんの乳頭を指で弾きつつ、陰裂のスジにチンコをあてがう。



わざわざ見なくても位置がわかるほど熟知した咲ちゃんの膣へ、すんないチンコが潜りこむ。女性器と男性器の重なった卑猥な部分が、互いの動きを測ったように押し合いへし合いする。





咲ちゃんは背中から抱きかかえられ逃げられない格好のまま、膣内に精液を吐き出される。見知らぬ相手に無理やり犯されているような気分がしたのか、感度が余計に上がってしまう。





咪ちゃんに挿入したチンコの動きが激しくなるにつれ、おっぱいを握る力も次第に強くなる。みみずぼれの跡が残いそうなほどきつく握り締め、痛みに悶える咪ちゃんの胎内に射精する。



